

万太郎山 2014/12/20 (土)

メンバー：落合 CL, 松村 SL, 上小牧, 荻原, 平川

天候：曇り時々晴れのち雨

高波吾策像前 7:00 ゲート 7:40 1,250m 敗退地点 12:20 高波吾策像前
14:00

今年の12月は日本海側を中心に記録的な大雪に見舞われている、12月中旬にして厳冬に来るような寒波が何度も襲来してるので、谷川の積雪事情も当然ながら例外ではないようだ。

壬生を前夜発、高速は赤城の手前から積雪があり、今回は「国境の長いトンネルを抜ける前から雪国」だった。参考までに湯沢で積雪 150センチ程度。

最近我々の間ではお馴染みになってきた土樽駅でステーションビバーグ、ホームの階段上にテントを張ってプチ宴会をして就寝。

当日は駅で準備を済ませ高波吾策像前広場まで移動、ここまで除雪されている。

昨年も同時期に茂倉新道から茂倉岳に登ったのだが、今年は昨年に比べて倍以上の積雪で吾策像も雪の上から顔だけ飛び出でて何とも息苦しそうだった。

今回は冬山の手始めてとして深雪の処理・ラッセル訓練として入山、谷川では歴史上のレジェンドである高波吾策氏が開いた吾策新道を辿り万太郎山を目指す。

土樽 P A から万太郎谷沿いは巡視路（林道）が延びているので途中までキャタピラで簡単に除雪されていた。

重機が入っていないければPAから腰程度のラッセルなので最初はだいぶ楽させてもらった、ゲートがある先は当然ながら除雪はされていくなく本格的なラッセルの始まりとなる。



最後の大きな堰堤が見えたころから適当に尾根に入る、雪が深いので夏道は全く分からぬがラッセルは新潟らしい湿雪で一步足を上げる度に一緒にまとわりついてくる重い雪なのでトレーニングにはちょうどいい。

今日は日帰りの訓練なので、前衛峰・オオベタテの頭まで行ければ御の字と思っていたが予想以上の積雪で思うように進まない。

途中、カモシカに遭遇したが奴もラッセルに相当苦労しているようにみえた、5人いたら俺らのが強えーなどと思ったが我々は道具を使ってイーブンかギリギリ負けていたかも。

標高 900m 程度の急登で目線と同じ高さのラッセルもあり、雪の処理が大変だが進むにつれて一同ラッセラーズ・ハイになる。

誰が美味しい雪を頂くか、こんなこと言つていられるのは日帰り山行だからだが泊まりや合宿でも同じ熱意で挑みたいものだ。。



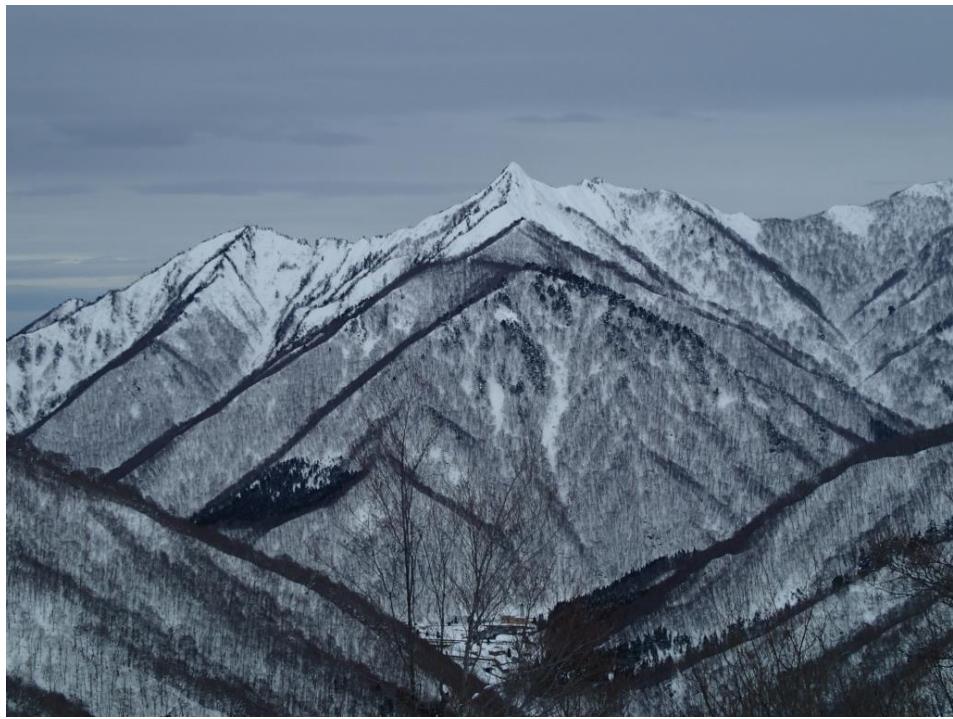
若手の平川君（右）はいつも口ばかり動いているが、今日は黙々とラッセルに励む。



舟窪直下で最後の粘りをみせる。



雪煙舞う茂倉岳、視界は良好だが稜線の行動はキビシそうだ。



土樽 P Aとピラミダルな山容が目を引く足拍子岳、

今冬登ってみたいと思っている雪稜のひとつ



諦めて下山。

当日は平年より気温が高くこの時期にしては珍しく天候にも恵まれたが、降ったばかりの深雪に苦労し 1,250m 付近・舟窪直下で時間切れとなった。

午後は急速に天気が崩れるとの予報、下りは登りの苦労は一体何だったんだろうといくくらいのペースで急降下、土樽まで 1 時間 40 分で下山してしまった。

温泉から出たらちょうど雪ではなく雨が降ってきた、夜は本降りとなり稜線はまたまとまつた降雪となったのだろう。

5 人で頑張っても前衛峰にも届かなかった、でもやっぱりトレースのない道を自分たちだけで刻みながら進む冬山は改めて楽しい。

毎回感じことだが、越後・土樽側は自分たちだけの内容ある山行が出来るので次は是非泊まりで来たい。（しかし 1 泊でも山頂を踏めるかどうかは怪しい）

（記録：落合）